

# BB通信

## 10月号vol.21



×



9月上旬にスタートした、第3回フューチャーズも佳境に差し掛かってきました。各選手が毎週の試合を楽しみしている姿を見ていると嬉しく思うと同時に、選手達の成長を感じます。悔しい試合が続いていた1年生は、ここ最近の試合では僅差の試合が行えるようになっていきます。部員の多い2年生は、ブレーブス、カージナルスの選手達が自信を持ってプレーできるようになってきました。3年生も良い結果が続いています。試合が続きますが、チームとして今以上に規律面に重きを置いて、選手にアプローチしていきます。野球だけできる人にならないように、野球を通じての「人材育成」に取り組んでいきます。

『何のために我々は大会に参加する??』

コーチ 阪長友仁

みなさん、こんにちは。

やっと暑さが過ぎ去ったと思うと、一気に寒さが押し寄せてきた気がします。日本から秋はどこへ行ったのやら??という思いもありますが、9月末のボーイズリーグ関西秋季大会阪南支部予選には、たくさんの方々に応援・お手伝いにお越しいただき、本当にありがとうございました。

残念ながら、堺ビッグボーイズ、南花台フューチャーズ共に予選を突破することはできませんでしたが、3試合ずつ合計6試合で選手たちは様々な貴重な経験を積むことができたのではないかと思います。

ご存じのように、阪南支部では今回の支部予選（中学生の部）をこれまで行ってきたトーナメント戦からリーグ戦に変更して実施されました。

リーグ戦に変更したことで、これまで全て勝たなければならなかった予選が、例えば1敗してもまだチャンスがある予選へと変わり、1回負ければ2度と次の試合ができなかったところが、最低でも3試合を行えることになりました。

この変化をどう捉えるかは参加したチームそれぞれだと思います。

リーグ戦になったことで、全体の試合数が増えて支部やチームの運営面の負担も増えたと思います。2連敗したチームが、勝ち抜くチャンスがない中で試合を行う必要性を疑問視する声もあったかもしれません。

確かに、チームとして勝ち抜くことだけを考えるなら、トーナメント戦の方が効率は良いのだと思います。しかしながら、我々にとっては勝ち負けも大切ですが、それよりも選手たちが野球を通じて成長してくれることを最優先に考えなくてはならないと思っています。

両チームとも、予選リーグ中で失敗を恐れず思い切ってチャレンジする選手の姿を多く見る事ができました。負けてしまっても、よし次は頑張るぞ！と前を向く選手の姿も数多く目にしました。今、ただ勝ち抜くこと（もちろん、やる以上は勝利を目指すのですが）だけを考えるのではなく、子供たちが未来に向かって強く逞しく生きていくために、野球を通じて、大会を通して学んでいく・・・。そういった意味では、今回の予選がリーグ戦で行われた意義は大きいのではないかなと思います。

すでに次に向かってフューチャーズリーグも再開しています。ご負担もおかけしているかと思いますが、引き続き暖かいご支援・ご協力をよろしくお願い致します！

### 堺BB小学部

2015年4月に設立した堺ビッグボーイズ小学部、部員2名からスタートをしましたが、2016年10月現在、26名の選手が元気いっぱいに活動をしています。今後も小・中一貫指導に尽力していきますので、広報のご協力よろしくお願い致します。

## 「厳守事項」

コーチ 久富 恵介

今月は、堺ビッグボーイズの厳守事項を紹介させていただきます。

### 堺ビッグボーイズ 徹底厳守事項

- 1 朝は自分自身で起床し、参加！（朝食をしっかり取る）
- 2 挨拶の徹底！（感謝の気持ちをもって）
- 3 大きな声で返事をする！→意思表示をする！
- 4 グランド内（攻守交替）は常に駆け足！（リズムカルに）
- 5 整理整頓！用具の管理を行う！
  
- 6 自ら率先して行動！→指示待ち行動はしない
- 7 常に周りを気遣って行動！気づきのある選手に！
  
- 8 毎日の課題を持って練習に取り組む！

2009年、チーム改革時に厳守事項を定めました。（指導者間、選手間の意見も取り入れ、何度か内容を変更し、現在の項目になっています）

取組みだした頃、「試合の勝った、負けたよりも厳守事項に重きを置いて選手にアプローチをしよう」ということでスタートしました。当初は、できていない、やろうとしない選手は強制的に帰宅させることもありました。野球の技術面以上に、選手に厳しくアプローチをしていました。

チーム内に厳守事項が浸透するまでは、1年から2年は掛かりました。定期的に行う選手間ミーティングでは、「厳守事項ができていない」「しっかりやろう」など、上級生を中心に話をするようになっていました。

ここ最近、厳守事項に対しての意識が指導者、選手ともに薄れていたように感じます。年内2カ月、徹底して意識付けを行っていきます。

野球に取り組む姿勢が良くなればプレーも変化します。野球以外の取組みを積極的に行うことで、将来野球から離れた時にも能力を発揮できるでしょう。選手と共に厳守事項を見直し取り組んでいこうと思います。

## 「OBの声」

喜多 真吾

僕が堺ビッグボーイズで野球をさせていただいて、常に言われ続けていたことが「じっくりと我慢しなさい」でした。

特に、バッティングでは「逆方向に強く打て」と言われ続けました。最初は、「なんで引っ張ったらあかんのや」という思いもあり中々結果が出ませんでした。

それでも我慢して、じっくり取り組んでいると、三年生の夏には「自分のポイントができていな」と感じました。

今では、あの時期に指導者の方を信じて取り組んでおいて良かったなと思っています。

堺ビッグボーイズでの経験は、僕の野球人生において無くてはならない経験だったとおもっています！これからも野球を楽しみながら、成長していきます。後輩の皆さんも野球を楽しんで下さい。

### ■喜多 慎吾 君 堺ビッグボーイズ(28期生—広陵高校—現明治大学1年生)

喜多君が、堺ビッグボーイズへ入部をしたのは2年生の11月頃でした。和歌山県新宮市で中学校の軟式野球をしていた喜多君。体験練習の際、たまたま打撃練習行っており、私(久富)が打撃投手でした。初球に「ドカ〜ン」とホームランを打たれたのを鮮明に覚えています。身体も大きくて、パワーもある選手でしたが、途中入部の彼は現在も選手達が取り組んでいる体操等が苦手な選手でした。それでも、コツコツ体操等、苦手なことにも取り組める選手でした。堺ビッグボーイズでは、主力選手として、春・夏の全国大会出場に貢献、広陵高校でも主力選手として甲子園出場を果たし、現在は明治大学にて野球に励んでいます。

これからが楽しみな選手です。ご声援よろしくお願ひします。